報徳@なう
１１月号

# １０月だけで5t以上の食品支援!

## 地域で存在感を増す社会福祉協議会

フードバンク活動のことを話題にしたときに「どうやって食品を必要としているひとり親家庭や高齢者を探すのですか?」と聞かれることがある。その答えは「社会福祉協議会がハブとなってつないでくれています」となる。行政では縦割りになってしまう部分が、社協ではそれに横串が刺さっていて、守秘義務を順守した上でどこに問い合わせれば良いかを指南してくれる。もちろん、担当者によってバラツキはあろうが、こちらも熱意を持って接すればそれに応えてくれる人が多いと私は信じている。失礼ながら、フードバンク活動で接するまでは、社協は高齢者対応の組織と思っていたが、それだけではなかった。全国の地域に根付いている「福祉のプロ集団」と言えるだろう。各地域で生活に困ったことがあったらまず社協、という貴重な存在なのだ。

【文責・編集部】



↑小田原市母子寡婦福祉会主催の食品配布会で、小田原市社協スタッフの協力により1人分ずつに小分けされた食品。

## 外国人労働者の窮状を食糧面からサポートしていく

フードバンク活動をしていて最近気にかかるのが、外国人労働者の窮状です。彼等の多くが住む大都会では、コロナ禍によって、仕事が大きく減ってしまい食べる物に困っている外国人が大勢いますが、実態が眼に見えてきません。

小田原箱根地区でも、いろいろなサービス業や魚の加工場で働いている外国人が少なからず暮らしているのがわかってきました。多少、コロナ禍の状況が改善されても優先されるのは日本人の雇用です。所詮、外国人労働者は不足する日本人労働力の帳尻合わせですから、彼等には仕事が戻って来ていません。

収入がないから、食べ物はとても大切にしています。食品支援対象の日本人がもらってくれない災害用備蓄品のアルファ米の大袋も喜んで使います。避難所の炊き出し用のアルファ米5キロが大きなアルミ袋にズボッと入っています。もらった外国人家族は、そこから毎日少しずつ取り出して食べているそうです。古くなったお米も持って行きます。

「中に虫がわいている可能性があるよ」と言っても「大丈夫、チェックして使うから」と笑顔で答えます。

私は、今七十三歳。昭和三十年代前半の食べ物を大切にして暮らしていた頃を思い出しました。母から言われて、虫が出たお米を新聞紙の上に拡げて、虫を探して捨てた事がありました。

より困っている人達が見つかれば、優先的に支援していくつもりです。

【副理事長　本岡俊郎】



↑小田原市母子寡婦福祉会向けに準備した食品。

●報徳食品支援センターニュースレター「報徳@なう」
Vol.01 / No.004
●発行所
ＮＰＯ法人 報徳食品支援センター
●発行人：田嶋　享
●編集人：本岡俊郎
●編　集：千葉哲也
●電　話：０９０－３１０７-６４７７
http://小田原報徳フードバンク.com

## １０月の主な食品配布実績

【１】０６日：箱根はまゆう会・仙石原　１３０世帯
【２】１８日：小田原市母子寡婦福祉会　６０世帯
【３】２１日：箱根はまゆう会・箱根湯本　５７世帯
【４】２６日：カーサ・デ・アミーゴス（三島市）
※静岡県東部に住む外国人を支援する団体
【５】郵送：フードバンク・二本松（福島県）
※原発事故被災者を支援するフードバンク



↑仙石原の配布会で挨拶する理事長の田嶋。



↑外国人労働者にも配布した冷凍ブロッコリー。



↑「農業に力を入れるチャンス」と語る田嶋。

【理事長より】

自給自足の時代がやってきた二宮尊徳翁は１７８７年の生まれです。当時は酒匂川の氾濫があり、政治は混沌とし、生活の困窮者も多くなっていました。稲作も台風や水害もあって、地域の状況は大変だったといいます。まさに今の新型コロナ禍の問題も同じように感じます。最近の報道によると年収４００万円以下の人が全体の３分の１になるということです。今後の日本経済はどうなってしまうのでしょうか。

私は三十五年前に農業を片手間に始めましたが、二十年前くらいからは農業法人として農家の一員となり、資格を取得して取り組んできましたが、農業を新たな仕事として取り組む人が増えない事を心配しています。実際、１００万円の農業収入を得るための労賃、種、肥料、借地代などが２００万円かかってしまうのが大きな問題なのですが、国は新しく農業を目指す人には特別な助成金等のサポートをしています。農業の助成金制度が豊富な今こそ、農業を始めてみるチャンスかもしれません。

【理事長　田嶋　享】

【これからの活動予定】

★箱根はまゆう会
●十一月十一日（水）
箱根町@茶屋自治会
●十一月十七日（火）
箱根町@さくら館
●十二月一日（火）
箱根町@星槎学園
●十二月中旬
箱根町@仲町集会所

★開成町母子寡婦福祉会
●十一月二十八日（土）
@報徳食品支援センター

★小田原市母子寡婦福祉会
●十二月二十日（日）
@報徳食品支援センター

【ボランティアの募集】

http://小田原報徳フードバンク.com/問い合わせ/

当ＮＰＯでは食品の仕分けや配布、広報資料の発送などのボランティアを募集しています。（担当：本岡）

●編集後記

食品業界は奥が深い。農林水産業から、加工産業、運送業、卸売市場、小売店等に細分化されており、それらが秒～分単位で制御されていると思えば、年単位で成果が出る部分もある。それゆえ食品ロス削減は一朝一夕ではできない。（哲）